

「投票権が早く欲しい!」「いい体験ができた」 「投票する責任を痛感」

資料1:参加者の感想

模擬選挙における未来の有権者の感想(抜粋)



- ・日本は無駄な所で金を使いすぎていると思う。外国に金をあげる前に日本のことを考えてほしいと思った。早く投票権がほしいです。八年後はどうなってるだろう(03総選挙、12歳)
- ・投票するには責任が必要だとわかり、緊張した。(03総選挙、中学3年)
- ・20歳になって急に投票できると言われても、きっと困惑してしまうと思うので、こういう形で真剣に考えられる場があると、とても勉強になります。(02町田市長選、18歳)
- ・自分たちに最終的には影響してくるから、慎重に選ばないといけないという責任があることに気づいたし、成人になったら、それを負わないといけないと思うと、大変だと思う。(03総選挙、18歳)
- ・来年から選挙権をもつ者としていろいろ考えさせていただきました。いい体験をさせていただきました。(03総選挙、19歳)
- ・「選挙権の無い若者にも投票させる」という企画はとても有意義なものだと思います。(04参院選、15歳)

上:東京都多摩市長選挙ユース模擬投票2002、中・下:ユース”模擬”総選挙2003(中:ぎふ、下:六本木模擬投票所)

「若い世代も日本の将来について無責任すぎる」 「基礎知識なしに投票なんてできない！」

資料2：参加者の感想

模擬選挙における未来の有権者の感想(抜粋)



・なぜ学校で選挙の仕方、投票の仕方を学ばないのか不思議です。何も基礎知識無しにいきなり投票しろと言われても誰に投票したらいいのか分からないと思います。今回、模擬投票をしてみてわからないことがすごくたくさん出てきました。選挙権を持つ前にこのようにして経験することができたのはとてもよかったと思います。(04参院選、15歳)

・選挙権のない私たちがこうして社会に意見参加できることはとても嬉しい(05千葉県知事選、17歳)



・子供なのに、投票できるのはとても嬉しかった。この投票は政治に関するものではないし、私たちがどの人に投票したからといって都議会議員が変わるわけではないので、今度からは子供の意見も取り入れて欲しいと思う。(05都議選、13歳)



・法律では、20歳以上しか投票出来ないし、20歳以下は意見も聞いてもらえないから、こういう投票というのは、とてもいいと思う(05総選挙、13歳)

・日本の将来を大きく左右するこの選挙に投票できないことは、とても残念です。しかし、この模擬選挙によって自分の意思を社会に伝えることができました。一人でも多くの有権者が投票に行き、国民の意思によって政治が行われる日本になればいいなと思います(05総選挙、18歳)

上・中：未成年“模擬”参院選2004@渋谷、下：千葉・未成年“模擬”県知事選@柏駅前

未来の有権者の政党別投票理由(04参院選)

資料3:投票理由

自由民主党

- 小泉さん達なら、少しずつでも景気回復のための改革を一番やってくれそうだから。(17歳、女性)
- 二大政党を描いて民主党を支持していたが、民主党はあまりにも浅薄に過ぎる。目先の今年しか見えていない批判、党としての指針がぶれ、党首の言動もぶれているこんな党を支持する際には残念ながら出来ない。選択肢が自民党しかない、これが現実というのが哀しい。(18歳、男性)
- 自民党は外交については及第点であるから。(19歳、女性)
- 拉致問題、家族問題、教育問題で良識ある活動を行っているから(19歳、男性)

民主党

- 自民党は嫌い戦争をしようとしているから。民主党を対抗勢力にしたいから(11歳、女性)
- 興味があったから(14歳、男性)
- 憲法第9条を守らなければならない。自民党は改憲を考えており不安を感じる年金については法案の成立が納得できないから(16歳、女性)
- 教育に関して興味を持った。自民党をあれだけ批判するのだからその力を見てみたい。(17歳、男性)
- 比例区の白氏には北朝鮮が拉致問題解決するためにはこの人が当選して拉致問題を解決(19歳、男性)

公明党

- 公明党の公約は大きく前進していて、実現力があるから。(12歳、男性)
- 政権公約のうち31項目が実現していること、また他の公約も約60項目進行中ということで、何かと期待できそうだったから。(14歳、男性)
- 公明党は、神崎代表の下、マニフェストを確実に実現していっています。この不透明な社会にはやはり、常に忠実な姿の公明党ではないか、と思ったからです。(15歳、女性)
- 教育に関して、スクールカウンセラーの配置を拡大するという考えの文章を見て公明党に投票しました。(16歳、女性)
- 民主党が大嫌いだから(18歳、男性)

未来の有権者の政党別投票理由(04参院選)

資料4:投票理由

日本共産党

- いっぱいある政党の中で一番、言ってる事に筋が通ってると思ったから。(14歳、男性)
- 正直、一番今自分の考えに近い政策で、真面目に実直やっている党だと思ったから。選挙区の候補者の父は長崎で被爆していることもあり、平和を訴えて生きたいという。そのような考え方、言動に非常に希望を持つことが出来ると思ったから。(16歳、男性)
- 税金の使い方や集め方を考えたり、中小企業への資金供給を増やしたり、景気回復を目指しているから。(17歳、女性)
- 今後の躍進を期待して共産党にいました！(18歳、男性)
- 戦争に反対で護憲、年金改悪に反対しているから。与党は論外。民主や社民も与党に似たようなところがある。(19歳、女性)

社会民主党

- もし今、憲法9条を変えられてしまうと、私達が1番被害を受けるし、それに年金や消費税も私達の今後に大きく影響を及ぼすから、しっかり考える必要があるから。とても悩んだし、難しかった。でも、憲法9条改正や、年金問題、消費税の事など、私達が大人になった時のために意見を述べ続けたいと改めて思いました。(15歳、女性)
- 憲法第9条の理念を一番に尊重してほしいからです。(16歳、男性)
- 自然のことや安全のことやちゃんとしているから(17歳、女性)

みどりの会議

- 環境問題を根っこから考えていこうとしているところだから、みどりの会議を選んだ。(12歳、女性)
- 日本にも、欧米のような環境政党が必要だと思うから(15歳、男性)

その他

- どの候補者の主張を聞いても、口先だけに聞こえたり、現実性や具体性がなくて、白票しか書けなかった…(18歳、男性)

「若い時期から政治を考える事は非常に重要で大切」 「次回は参加校ももっと増えて欲しい」

資料5：先生方の思い

模擬選挙に対する、先生方の思い(05総選挙を終えて)

・今回の特徴としては、投票率が悪く初めて本物に負けました。体育祭の翌日だったためみんな疲れきっていたのかなあと思いましたが、聞き込んでみると、一番政治について真剣に考えている層・いつもなら率先して選挙に来た層が悩み抜いた？未棄権したという傾向がありました(都立武蔵高校・松田先生)

・生徒には政策、公約をよく考慮して投票するように言いました。全員とは言いませんが、ある程度はしっかりと投票してくれたと思います。前回よりも参加校が増え、この試みもだいぶ知名度が高まってきたと思います。また新聞などでも模擬選挙についてまだまだ理解が進んでおらず、実施できなかった学校があるとも聞いております。いろいろと課題もありますが、次回は参加校ももっと増えて欲しいと思いますし、このような試みがすべての学校で行われる日がくると思っています(東海大付属第4高校・工藤先生)

・高校3年女子は教科情報の時間で行った。パソコン教室で概要説明をした後各々がネットや配布したマニフェストで2時間の調べ学習を行った。教室でのポスター掲示(雰囲気作り)と近い将来自分自身も有権者になるという事を前面に押し出して授業を進めた。ワークシートを用いて記入させる事で情報収集能力の向上も計れた。一番大事な生徒の選挙に対する意識の変容もしっかりと出来たように感じている。若年層(有権者)の選挙に対する無関心な態度が問題になっているがこのような若い時期から教育として考える事は非常に重要で大切であると実感できた。(自由学園・更科先生)

・「選挙権が早くほしい。投票に参画したい」旨の意見が多数出た。過去にも「模擬選挙」を除く実践は「参議院議員選挙」(2001)で行ったが、やはりこういった企画は大変タイムリーでよいと思う。そして、「社会科」の授業だけではなく、NIE(Newspaper in education)」を通じての「英語」授業でも切り口は十二分にあると思う。様々な角度より、他教科に渡って切り込んでいっても興味深いと感じた。(苫小牧高専・山西先生)

・昨年に引き続き行ったが、今回事前に市選管を訪ね、本物の選挙箱をお借りしたのがよかった。またライツから送られた各政党のポスター、マニフェストも授業で紹介できて、ありがたかった(長野県松本筑摩高校・有賀先生)

・生徒の反応は昨年とは比べものにならないほどよく、アンケートに書かれた感想からも多くの生徒たちに有権者意識を育てることができたようだ。但し、候補者・政党を選んだ理由としては、知名度や年齢(より若い候補者)、「なんとなく」といったものが多く、政策ではなかなか判断できない投票者の現実のようなものを実感した。今後の課題としては、今回は時期的に一回の授業でしか取り上げられず、小選挙区の候補者については政党名だけで判断させることになったが、今後は授業を二回にわけて、生徒各自の属する選挙区の候補者に関する情報を収集する作業を入れる必要があると感じた。(華学園栄養専門学校・磯野先生)